

筑後西部第2地区遺跡群V

筑後市大字尾島所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第43集

2002

筑後市教育委員会

ちくごせいふだいにちく
筑後西部第2地区遺跡群V
おしまひがしふけいせき
尾島東婦計遺跡

2002

筑後市教育委員会

例言

1. 本書は、筑後川水系農地開発事務所が平成9年度に実施した県営担い手育成基盤整備事業筑後西部第2地区の事前調査として筑後市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。調査関係者は第I章に記したとおりである。なお、出土遺物、図面、写真は筑後市教育委員会において収蔵、保管している。
3. 本書に使用した図面の遺構図は上村英士、末吉隆弥（現川崎町教育委員会）が作成し、遺物実測図、浄書は横井理絵、平塚あけみ、仲文恵が行った。
4. 本書に使用した遺構写真は上村、末吉が撮影し、遺構全体写真は永見が撮影した。遺物写真は上村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は、国土調査法第II座標系を基準としており、方位は全て座標北（G.N）である。
6. 本書に使用した遺構の表示は、以下の略号による。
SD-溝 SK-土壙 SX-ピット、不明遺構、その他
7. 本書の執筆、編集は上村が行った。

目次

I. 調査経過と組織	1
II. 位置と環境	2
III. 調査成果	3
尾島東婦計遺跡	
(1) はじめに	
(2) 検出遺構	
(3) 出土遺物	
(4) 小結	
IV. まとめ	8

I . 調査経過と組織

平成9年度に福岡県筑後川水系農地開発事務所から筑後市教育委員会へ、県営担い手育成基盤整備事業筑後西部第2地区予定地内の埋蔵文化財の確認依頼があり、これを受けた筑後市教育委員会では同年に試掘調査を実施し、工事予定地内に埋蔵文化財が認められたことを事業関係者に回答し、協議を行った。協議の結果、「筑後西部第2地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査」として、掘削の及ぶ排水路工事予定地の調査を行うこととなった。埋蔵文化財発掘調査費用については国、県からの一部補助を受け、受益者負担分については文化財担当部局で負担し、残る費用については福岡県筑後川水系農地開発事務所にて負担することで合意した。

調査は平成9年度に実施し、遺物の整理及び報告書作成については、平成9・13年度に筑後市文化財整理室にて行った。

なお、発掘調査及び整理作業の関係者は次のとおりである。

(平成9年度)

1) 調査主体

筑後市教育委員会

2) 総括

教育長 森田基之

教育部長 津留忠義

社会教育課長 山口逸郎

社会教育係長 田中清通

社会教育係 永見秀徳

小林勇作

田中剛

上村英士 (調査担当)

柴田剛

立石真二

(平成13年度)

1) 調査主体

筑後市教育委員会

2) 総括

教育長 牟田口和良

教育部長 下川雅晴

社会教育課長 松永盛四郎

文化係長 成清平和

文化係 永見秀徳

小林勇作

上村英士 (報告担当)

柴田剛

立石真二

事務臨時 井上喜枝

3) 発掘調査参加者

地元有志

4) 整理作業参加者

整理補助員 平塚あけみ

仲文恵

整理作業員 野間口靖子

湯川琴美

野口晴香

横井理絵

妹川玲子

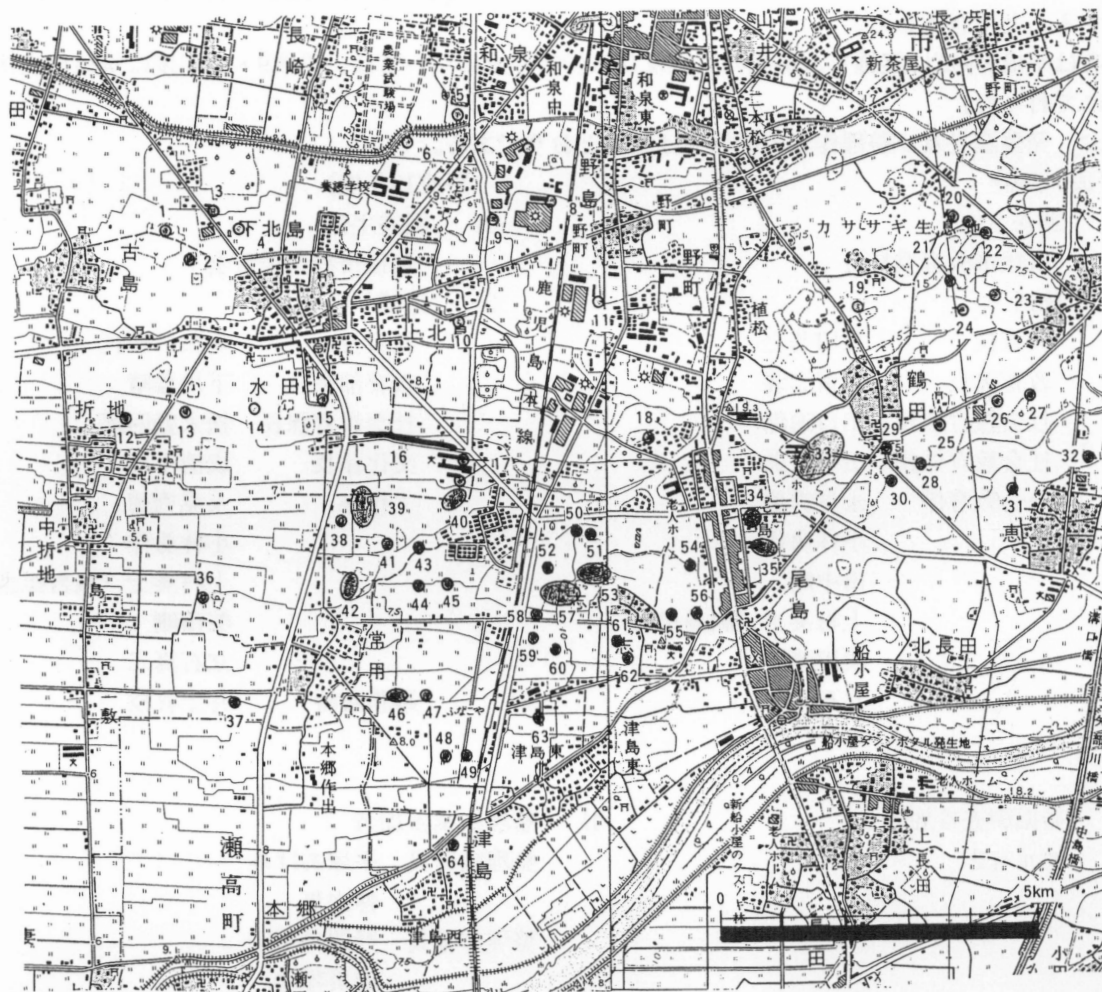
荒巻悦子

尚、調査及び整理に際しては次の方にご指導、ご教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。(敬称略)

久留米市教育委員会 富永直樹

II.位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は、国道に沿って市の中央部に形成されている。



- | | | | | |
|--------------|---------------|---------------|-------------|-------------|
| 1 古島榎崎遺跡 | 2 榎崎遺跡 | 3 下北島久清遺跡 | 4 下北島久平遺跡 | 5 和泉近道遺跡 |
| 6 下北島榎引遺跡 | 7 井原口遺跡 | 8 狐塚遺跡 | 9 上北島花畑遺跡 | 10 上北島前田遺跡 |
| 11 上北島平塚遺跡 | 12 折地長間寺遺跡 | 13 水田伊勢ノ脇遺跡 | 14 水田正吹遺跡 | 15 水田下桜町遺跡 |
| 16 水田杉ノ元遺跡 | 17 水田山伏遺跡 | 18 (上北島) 裏山遺跡 | 19 鶴田野田遺跡 | 20 鶴田溝代遺跡 |
| 21 鶴田東大坪遺跡 | 22 新溝犬丸遺跡 | 23 鶴田西畑遺跡 | 24 鶴田西田遺跡 | 25 鶴田武津恵遺跡 |
| 26 新溝松原遺跡 | 27 新溝九太遺跡 | 28 鶴田榕原遺跡 | 29 鶴田大南遺跡 | 30 鶴田前島遺跡 |
| 31 久恵野元遺跡 | 32 久恵岸ノ下遺跡 | 33 鶴田岸添遺跡 | 34 鶴田中市ノ塚遺跡 | 35 鶴田市ノ塚遺跡 |
| 36 (常用) 梅島遺跡 | 37 常用ビンセ田遺跡 | 38 水田下平霊石遺跡 | 39 水田上平霊石遺跡 | 40 水田上仁良葉遺跡 |
| 41 常用日田行遺跡 | 42 常用(北) 長田遺跡 | 43 常用ニラハ遺跡 | 44 常用相割遺跡 | 45 常用野々下遺跡 |
| 46 津島南佛生遺跡 | 47 常用南笹原遺跡 | 48 津島北石伏遺跡 | 49 津島皿ヶ町遺跡 | 50 志藪ノ内遺跡 |
| 51 志八反田遺跡 | 52 志野添遺跡 | 53 志上婦計遺跡 | 54 尾島下町裏遺跡 | 55 尾島東婦計遺跡 |
| 56 尾島前田遺跡 | 57 志下婦計遺跡 | 58 常用野中遺跡 | 59 志西田遺跡 | 60 志西野々遺跡 |
| 61 志前田遺跡 | 62 志垣添遺跡 | 63 津島北美田遺跡 | 64 津島洲崎遺跡 | |

Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/30000)

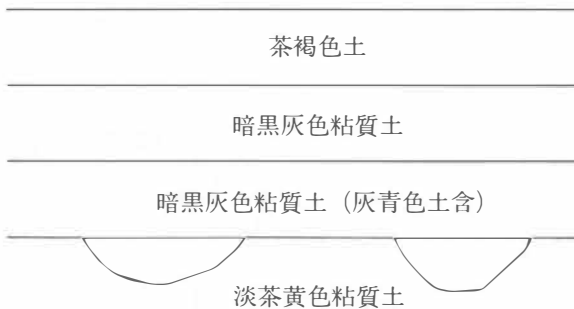
III. 調査成果

(1) はじめに

尾島東婦計遺跡は、筑後市大字尾島字東婦計に所在する。県営担い手育成基盤整備事業筑後西部第2地区第13工区の排水路部分について、事前の試掘調査で溝等を検出したため、本調査を行った。調査対象面積は約310㎡である。調査は末吉隆弥（現川崎町教育委員会）協力の下、上村英士が行った。



Fig.2 尾島東婦計遺跡調査地点位置図 (1/2500)



調査区の基本土層は耕作土下に茶褐色土、暗黒灰色粘質土、淡茶黄色粘質土が堆積している。遺構は淡茶黄色土に切り込むかたちで検出した。また、調査区周辺では場整備により耕作土を集めて山にしており、その耕作土からは多数の土器片や石製品を確認している。本調査区からは溝3本、土壇2基、ピット2個を検出した。

Fig.3 基本土層模式図

(2) 検出遺構

溝

SD001 (Fig.4・5)

北側調査区中央をほぼ東西に走る溝である。検出東西長約3.15m、最大検出幅約3.1m、最小検出幅約1.05m、深さ約0.36mを測る。溝両サイドも一段下がっているが、この溝との切り合い関係は不明である。埋土は淡茶黄色粘質土であり、溝底部はフラットである。遺物の出土は皆無であった。

SD002 (Fig.4・5、PL.1・2)

南側調査区で検出した溝で、SD003と平行に走る溝である。検出東西長約3.7m、幅約1.6m、最大深さ約0.55mを測る。調査区北側がテラス状になり、このテラスから護岸と考えられる杭を4本検出した。



Fig. 4 尾島東婦計遺跡遺構全体図 (1/150)

遺物は出土しておらず、旧地形に沿っていることから、旧畦に伴う水路と考えられる。

SD003 (Fig.4・5、PL.1)

SD002の南側で検出し、SD002とほぼ平行に走る溝である。検出東西長約3.65m、幅約1.95m、最大深さ約0.61mを測る。溝北側一部ががテラス状になる。遺物は出土していない。溝の方位が旧地形と平行になっており、旧畦に伴う水路ではないかと考えられる。

SK004 (Fig.4)

北側調査区北端で検出し、調査区外に広がると考えられる不定形の遺構である。深さ約0.1mを測り、墳底はほぼフラットである。遺物は須恵器皿を出土している。

SK005 (Fig.4・5)

北側調査区北端で検出した遺構である。調査区から2/3程度検出しており、検出長軸約1.57m、短軸約1.1m、深さ約0.32mを測る。墳北側にテラスを設けており、テラスの深さ約0.14mである。遺物は縄文土器片を出土している。

SX006 (Fig.4・6)

北側調査区中央で検出したピットが連結する遺構である。埋土が同一で切り合いは不明である。ピットAの長軸約0.82m、深さ約0.27m、ピットBの長軸約0.92m、深さ約0.25mを測る。

SX007 (Fig.4・7)

SX006南側で検出したピットで溝状遺構を切る。長軸約0.68m、深さ約0.26mを測り、北東側にテラスを設ける。テラスの深さ約0.07mを測る。遺物はサヌカイト製石鏃を出土している。

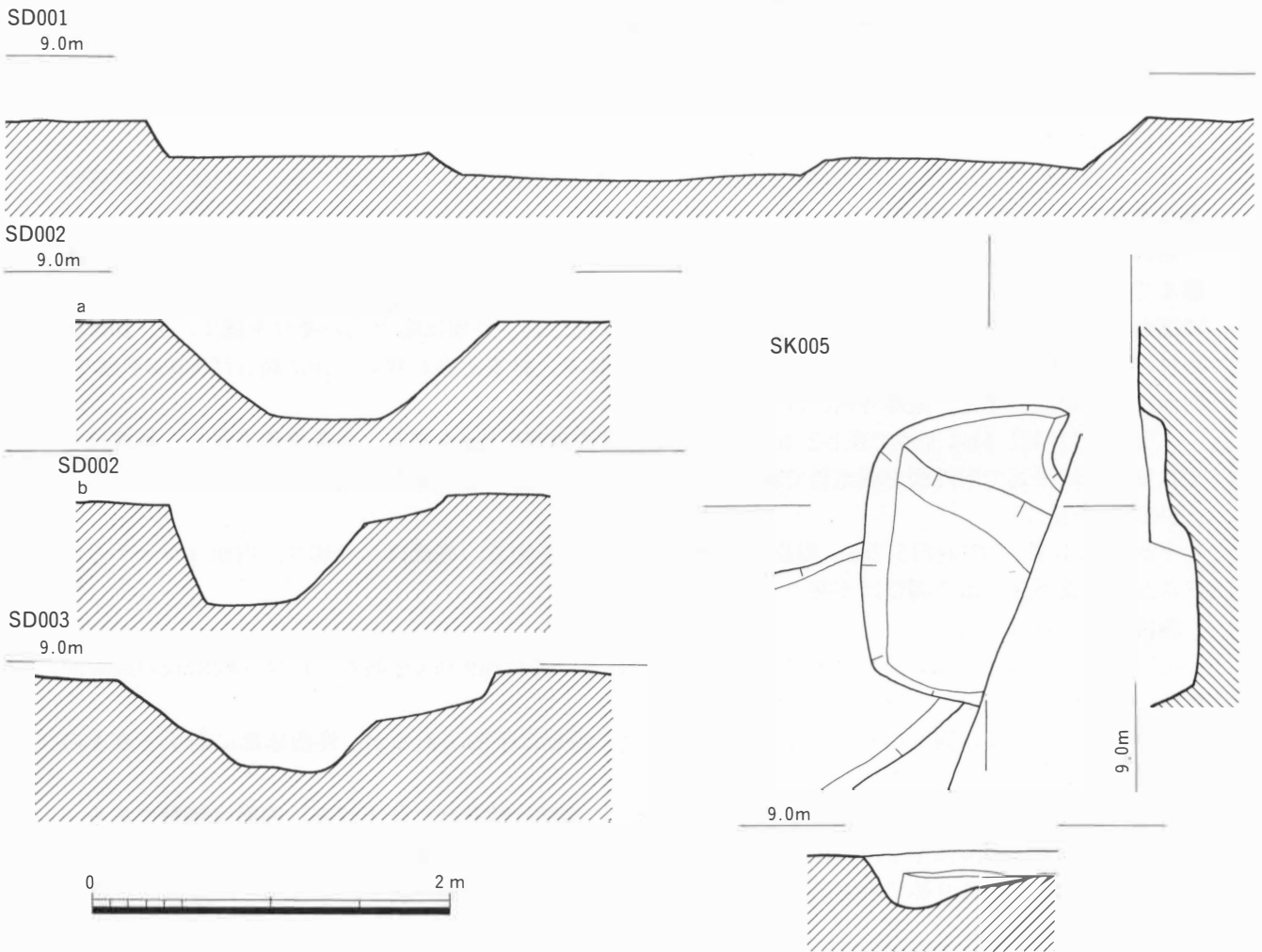


Fig.5 SD001、002、003断面SK005遺構実測図 (1/40)

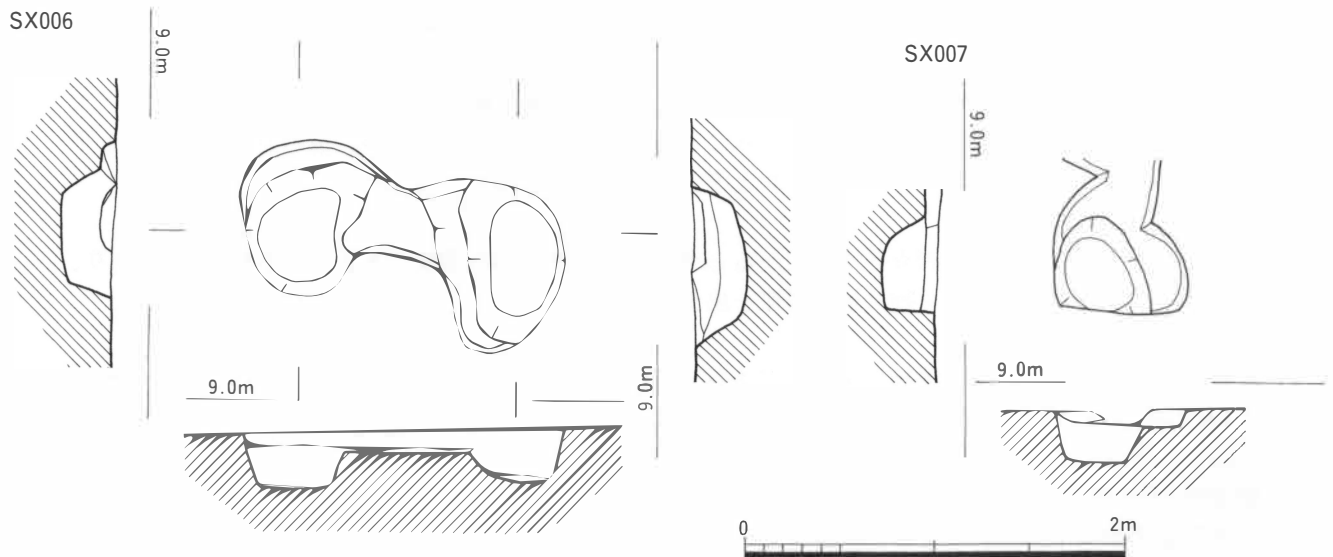


Fig.6 SK006、SX007遺構実測図 (1/40)

(3) 出土遺物

土器

SD003 (Fig.7、PL.2)

須恵器 (1・2) 1は甕の頸部から胴部にかけての片で、外面は不定方向に平行タタキ、内面は同心円の当て具痕が残る。還元不良で土師質である。2は蓋の端部片でかえりを持つタイプである。かえりの外側には重ね焼き時の粘土が付着する。還元良好で硬質である。

土師器 (3・4) 3は坏片で口径17.0cmを測り、口縁端部を平滑に仕上げる。丸底坏のタイプである。4は火鉢の脚片である。

瓦質土器 (5) 鉢の口縁部片で端部を玉縁状に仕上げる。焼成不良で土師質である。口縁端部外面は重ね焼きにより淡黒色を呈する。

磁器 (6~10) 6、7は白磁の紅皿で6は口径4.5cm、器高1.65cm、高台径2.0cmを測り、体部外面から底部まで無釉で貝殻状の文を施す。7は口縁端部を平滑に仕上げ、外面に貝殻状の文を施す。8は青磁の碗で高台径6.0cmを測り、内面見込みに草花のような文が施され、外面は幅の広い蓮弁を施す。9、10は染め付けの皿で9は高台径7.1cmを測り、内面に山水文を描き、針支え痕が残る。10は高台径9.0cmを測り、内面に崩れた五弁花文、底部外面には渦福が描かれる。

土製品 (11・12) 11は土錘で長さ2.4cm、幅0.6cm、孔の直径0.3cmを測る。淡灰橙色を呈し、焼成はやや良好。12は平瓦で内外面を刷毛目で調整し、端部はケズリによる面取りを施す。

SK004 (Fig.7)

土師器 (13) 皿片で口径15.2cm、器高1.5cm、底径12.0cmを測る。底部はへら切り、内面ヨコナデと考えられ、焼成不良により調整は不明。

表採 (Fig.7、PL.3)

須恵器 (14・15) 14は断面逆台形の高台が底部に付き、高台径9.0cmを測る。15は比較的長い高台が外側に踏ん張る形で付き、還元不良で軟質である。

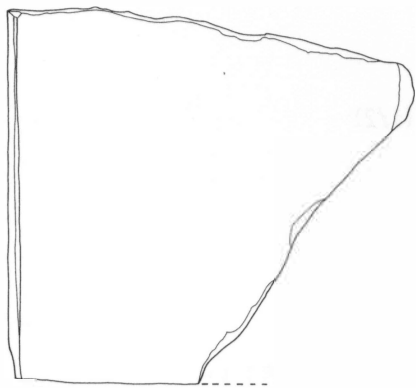
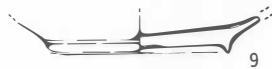
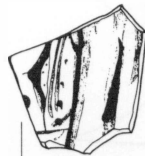
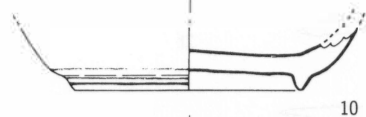
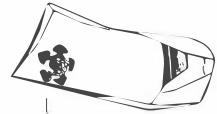
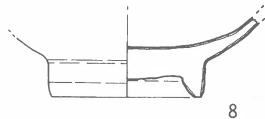
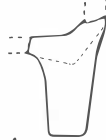
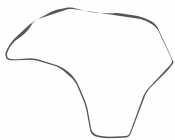
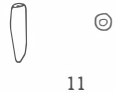
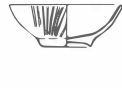
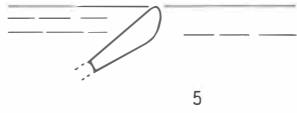
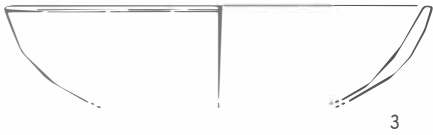
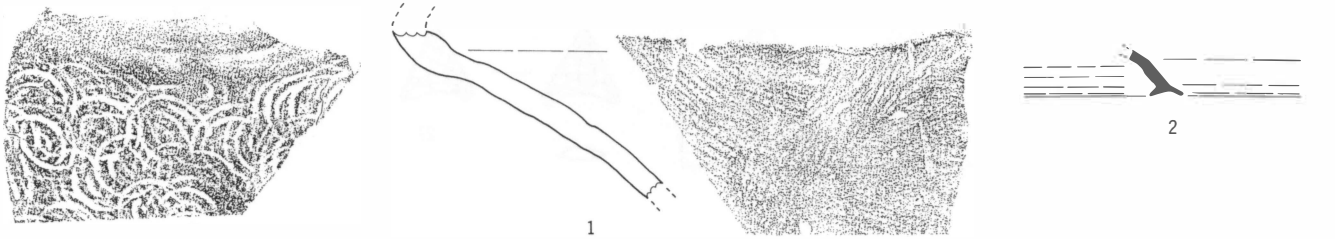
瓦器 (16・17) 16は高台径6.6cmを測り、焼成不良で調整は不明であるが、外面体部に若干ミガキの痕跡が残る。

磁器 (18・19) 18は白磁の壺蓋で外面に文様を施し、端部は輪花状に仕上げる。内面は無釉である。19は白磁の碗で口縁端部を平滑に仕上げる。太宰府編年のV類。素地釉共に粗い。

陶器 (20) 片口の播り鉢で内面に12本単位の櫛目を施す。口縁端部を折り曲げ玉縁状に仕上げ、全面に鉄釉を施す。

土製品 (21~24) 全て土錘で21は長さ3.1cm、幅1.0cm、孔直径0.3cm、22は3.4cm、1.1cm、0.2cm、23は3.5cm、1.1cm、0.4cm、24は3.9cm、1.2cm、0.4cmを測る。

SD003



12



13

表採



14



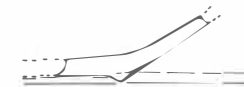
15



21



16



17



22



18



19



23



20



24

0 20 10cm

SK004



13

Fig. 7 SD003、SK004、表採遺物実測図 (1/3)

石器

SK005 (Fig.8、PL.3)

石鏃 (25) 完形の黒曜石製の石鏃で抉りが深い。

SK007 (Fig.8、PL.3)

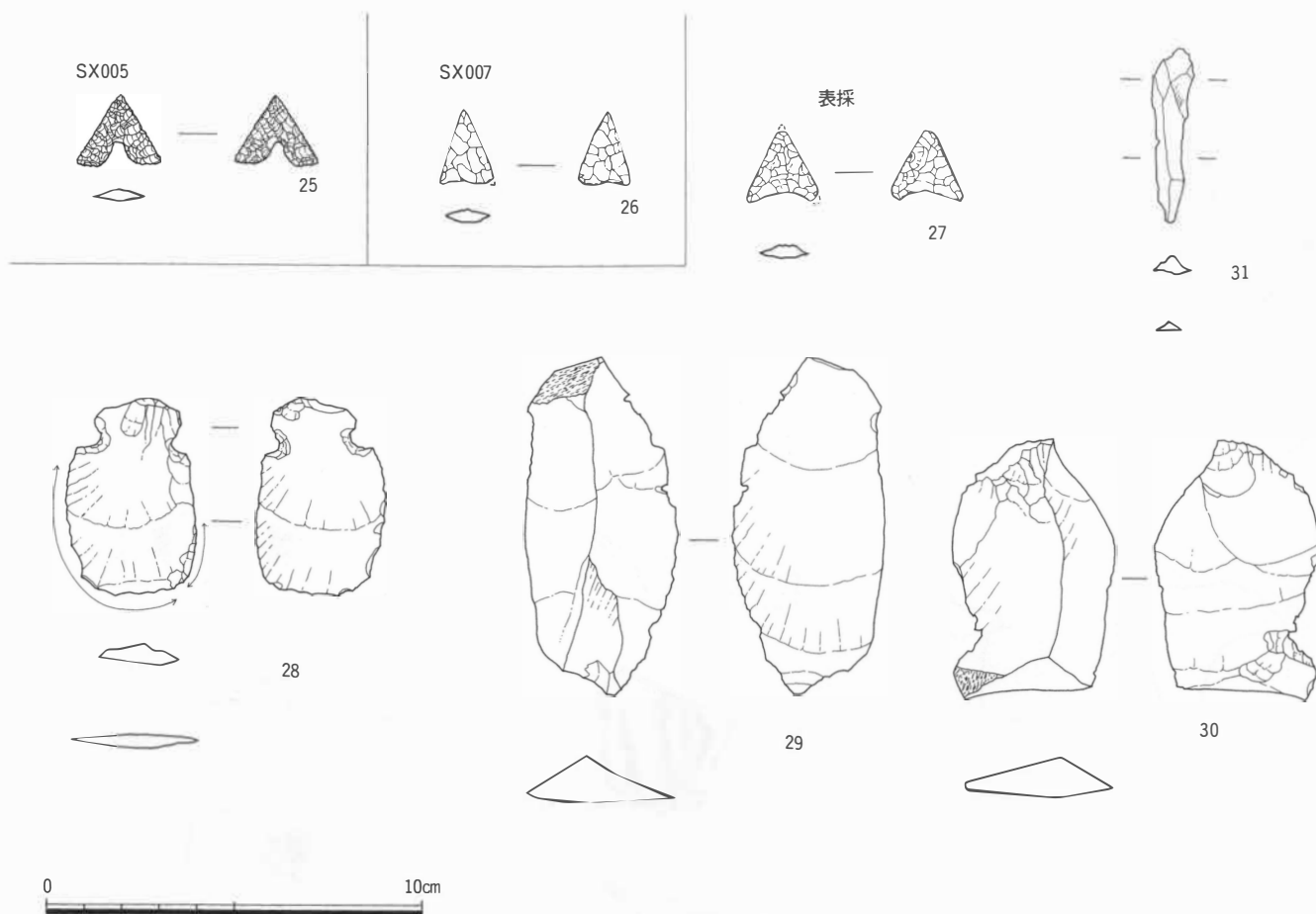


Fig.8 SK005、SK007、表採出土石器実測図 (1/2)

石鏃 (26) サヌカイト製の石鏃で磨耗と風化が著しい。

表採 (Fig.p、PL.3)

石鏃 (27) サヌカイト製の石鏃で風化が著しい。

石匙 (28) サヌカイト製の縦型の石匙で抉りを施し、先端の割れは風化している。

剥片 (29・30) 共にサヌカイト製器で接合面はないが同一素材と考えられ風化が著しい。

剥片 (31) サヌカイト製である。

IV.まとめ

調査区からは溝、土壌を検出したが、これらに伴う遺物の時期幅は古代から近世まで幅広く、周辺からの流れ込みや、溝等の掘り直し等の混入が考えられ、遺構の時期決定には至らなかった。溝については旧地形に伴う用・排水路であると考えられ、その使用は戦後まで残っていた可能性がある。また、表採遺物が多く、特に石器に関しては耕作土中に散見され、調査区外の耕作土にも遺物は認められた。当遺跡周辺の調査でも遺構面が耕作土除去段階で検出されることが多く、現況の面に遺構が存在する地域である。

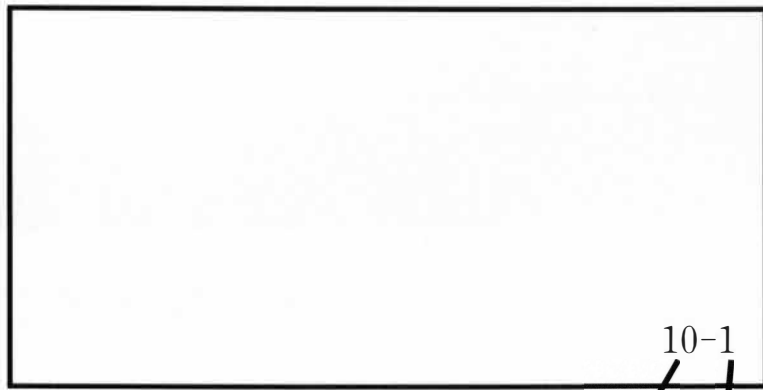
出土した遺物について概観してみると、縄文時代と考えられる石器から古代の須恵器、中世の青・白磁、近世の磁器など多種にわたる。

当遺跡では縄文時代から延々とヒトの生活が認められ、その痕跡を遺物として残している。また、当遺跡周辺にはまだ多くの遺跡が残っていると考えられ、その遺構・遺物について性格や時期を判断でき、尾島地区の郷土史を考古学から学べる資料の増加に期待したい。

P L A T E

凡例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。

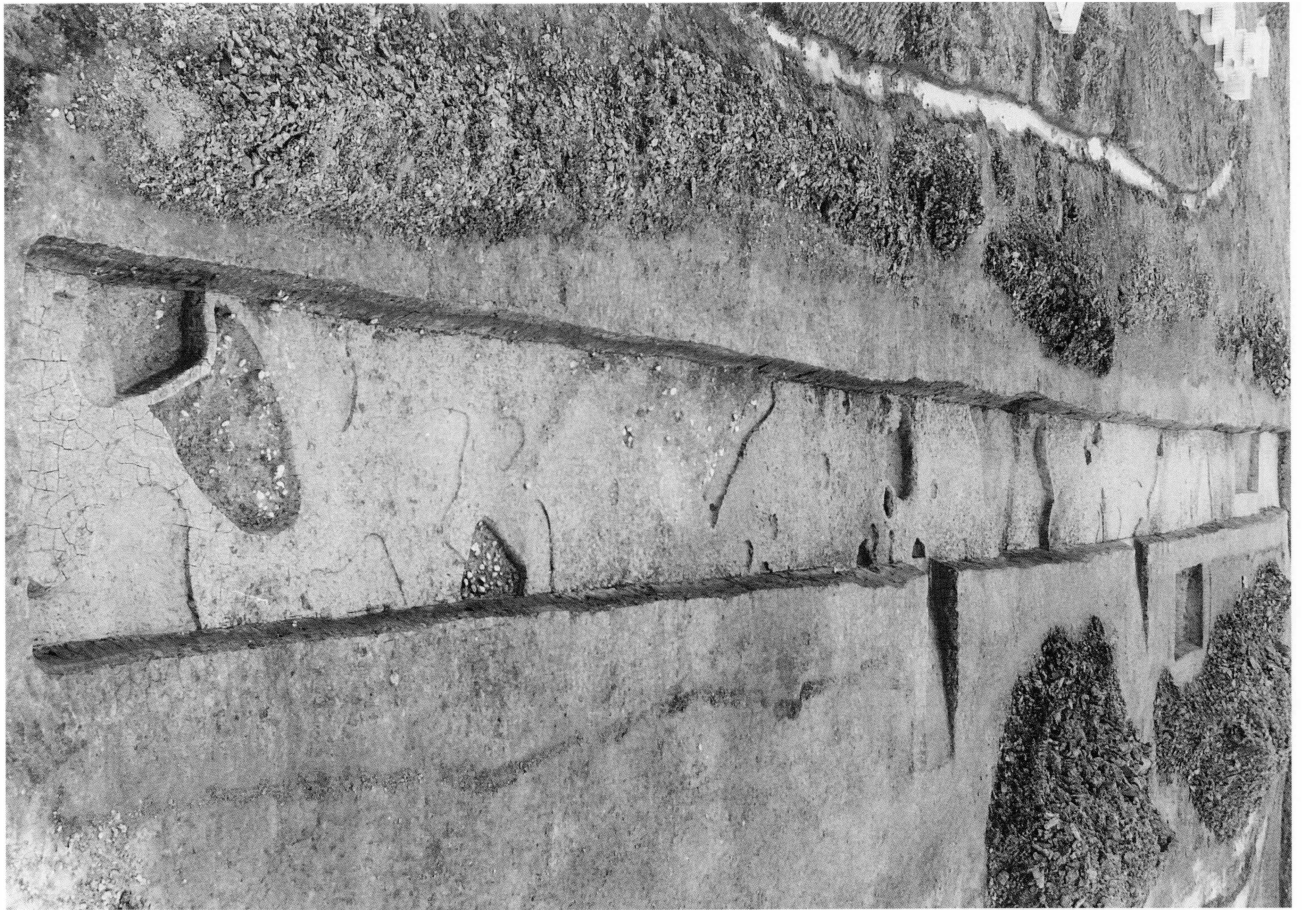


10-1

Fig番号

遺物番号

Pla.1



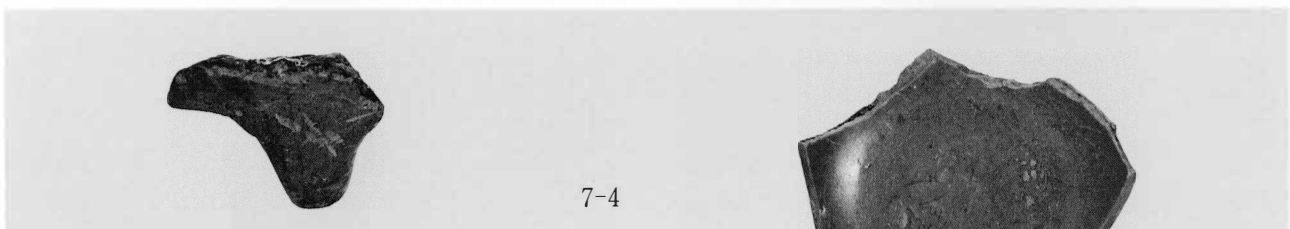
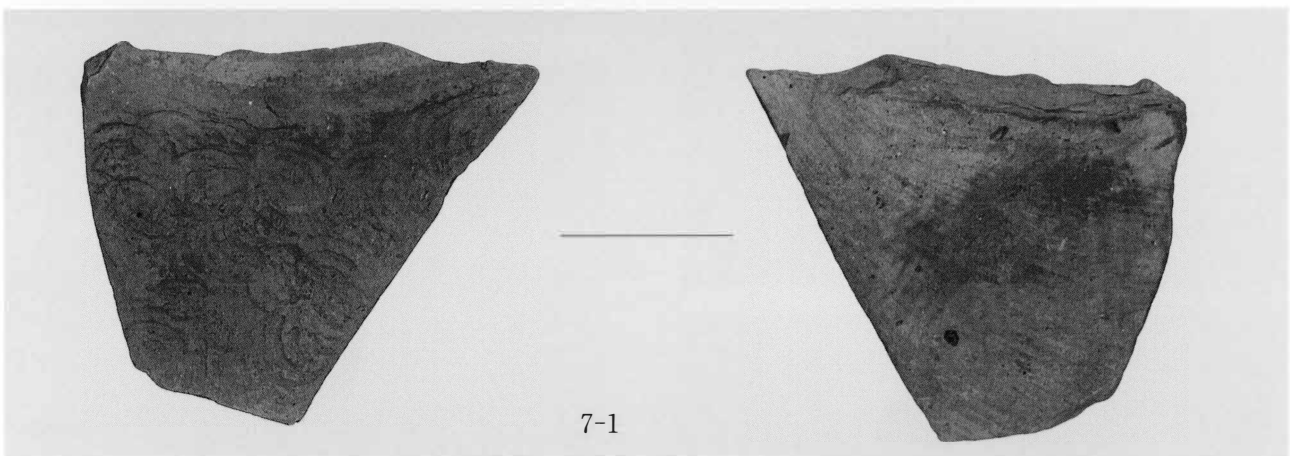
尾島東婦計遺跡調査区全景（上が東）



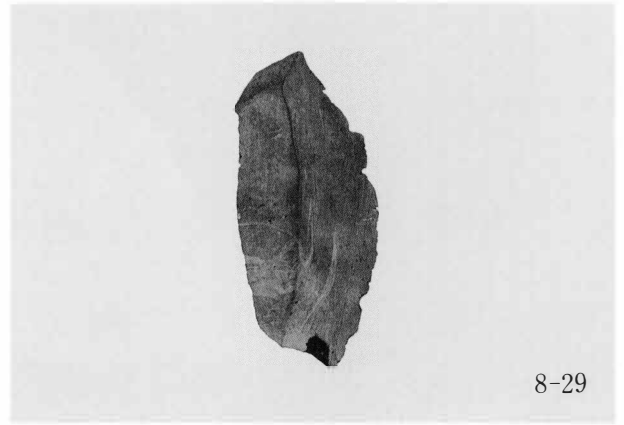
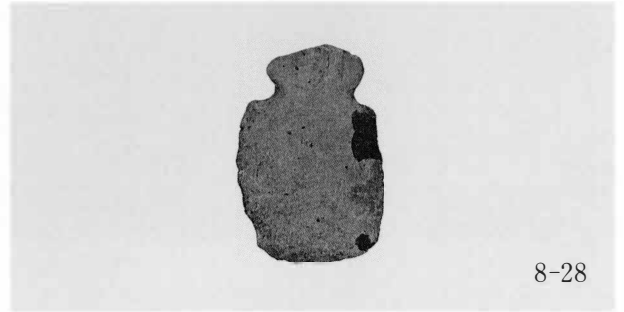
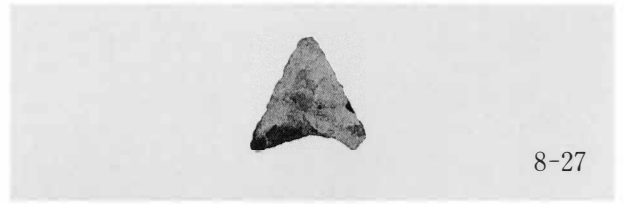
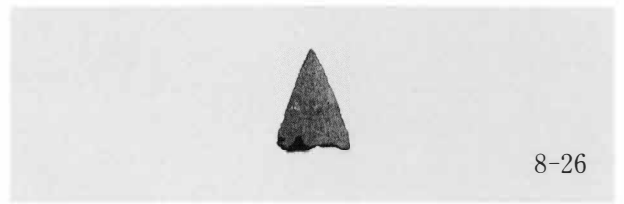
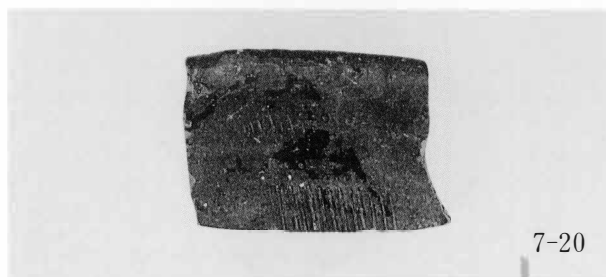
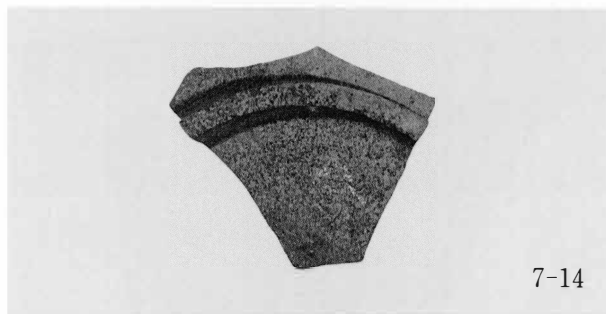
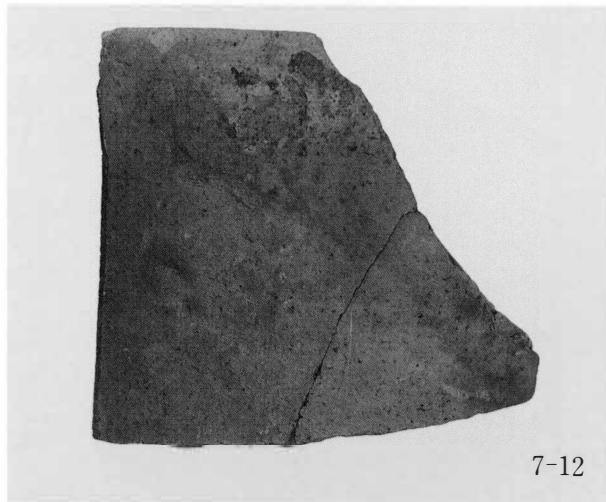
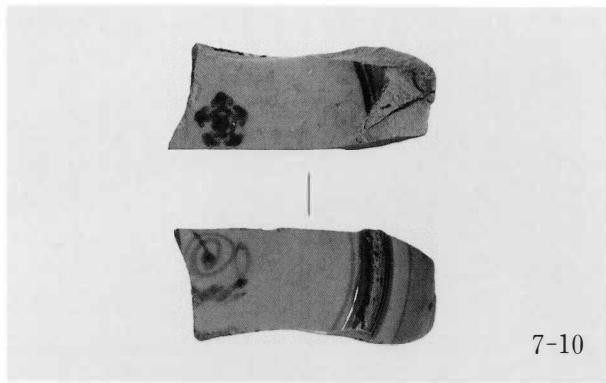
SD002、003完掘状況（南から）



SD002完掘状況（西から）



Pla. 3



筑後西部第2地区遺跡群V
筑後市文化財調査報告書
第43集

平成14年3月31日

発行 筑後市教育委員会
筑後市大字山ノ井898

印刷 大同印刷株式会社
佐賀市天神一丁目1番32号